

C T検査を受けられる方へ

医療被ばくに関する説明書

必ずお読みください。

【検査の必要性について】

X線C T検査では放射線を用いるため、放射線による被ばくを伴います。したがって、検査の必要性が被ばくのリスクを上回ると考えられる場合のみに検査を行います。放射線のことを心配で検査を受けなかったために、病気やけがの発見が遅れたり、適切な治療のタイミングを逃すことなどは避けなければなりません。主治医とよく相談し納得したうえで検査を受けてください。

【放射線量の最適化と被ばく低減への取り組みについて】

長岡赤十字病院では、法令や関連学会のガイドラインをもとに最適な条件で検査を行い、放射線による被ばくを必要最小限にすることを実践しています。また、装置の適正な管理を行い、様々な被ばく低減技術を利用し放射線量の低減を行っています。

【被ばく線量とからだに及ぼす影響について】

長岡赤十字病院で行う通常のX線C T検査により受ける放射線の量は、5～30ミリシーベルトですが、検査する部位や範囲、方法で異なります。一般的には、検査で受けた放射線の量が100ミリシーベルト未満であれば、放射線検査を受けた人も受けなかった人も発がん率や遺伝的な影響の差はないと言われています。長岡赤十字病院のX線C T検査で100ミリシーベルトを超える被ばくをすることはありません。また、定期的にX線C T検査をお勧めすることもあります。治療効果や病変の経過を観察することで最善の治療につなげるためです。複数回のX線C T検査を受けた場合でも、人体には放射線による影響に対する修復機能がありますので、放射線の影響が蓄積するわけではありません。小児においては小児専用の撮影条件を用い、より一層の被ばく低減に努めています。

令和3年1月
長岡赤十字病院
放射線科